

平成25年10月24日

鳥取市長 竹内 功 様

鳥取市行財政改革推進市民委員会
委員長 野田 英 明

平成25年度鳥取市行政評価外部評価について（報告）

本委員会は、平成25年度に鳥取市が行った市の事務事業に対する行政評価の対象及び評価内容に関して、改めて担当部局に対する質疑や審議を行い、本委員会の意見、提案等を明らかにする外部評価を行ってまいりました。

その評価結果を別紙のとおり取りまとめましたので、報告します。

平成25年度

鳥取市行政評価
外部評価報告書

平成25年10月

鳥取市行財政改革推進市民委員会

1. 外部評価の目的

鳥取市の内部で行った行政評価が妥当であるかどうかを、学識経験者等の専門的見地や市民の視点から検証し、併せて、今後における効率的な行政運営のための提言を行うことを目的としています。

2. 評価対象の選定

選定基準については、次の点を勘案し、原則としてこれまで外部評価の対象となっていない事業及び組織（課）を優先的に選定しました。

○法令等により実施内容が細かく規定されておらず、市の裁量が大きい事業

○平成25年度も継続して行う事業

○第9次総合計画実施計画に該当する事業で、一般財源が1,000万円以上かつ一般財源率80%以上。また、その該当する事業を構成する他の事務事業も該当とする。

○平成24年度に引き続きイベント開催補助金を選定する。

平成25年度 外部評価対象事務事業

No.	事務事業名	担当課
1	学力向上推進事業（学力向上推進）	学校教育課
2	特別支援教育支援員配置事業	学校教育課
3	睦逢大堤うぐい突き補助金	気高町地域振興課
4	貝がら節まつり補助金	気高町地域振興課
5	ふるさと産業まつり（気多の市）補助金	気高町産業建設課
6	中心市街地活性化事業（イベント助成事業）	中心市街地整備課
7	中心市街地活性化推進事業（市民交流ホール）	中心市街地整備課
8	企業立地促進支援事業（補助金）	企業立地・支援課
9	しゃんしゃん祭支援事業	観光コンベンション推進課
10	人材育成事業	職員課
11	文化施設管理事業（仁風閣・宝扇庵）	文化財課
12	文化施設管理事業（青谷上寺地遺跡展示館・あおや郷土館）	文化財課
13	文化施設管理事業（因幡万葉歴史館）	文化財課
14	用瀬流しびな行事	用瀬町産業建設課
15	生涯学習推進事業費	用瀬町教育委員会分室
16	流しびなマラニック大会補助金	用瀬町教員委員会分室
17	ガイナレ効果による鳥取力向上事業	企画調整課
18	砂丘景観保全事業（新発見伝）	鳥取砂丘ジオパーク推進課
19	町民音楽祭開催費	鹿野町地域振興課

3. 評価方法

『事務事業評価シート』を基本として、第4回及び第5回委員会において担当部局ヒアリングを実施し、それらの結果から各委員が評価ポイント等のヒアリングメモを作成しました。

ヒアリングメモには、「必要性」、「有効性」、「効率性」、「公平性」及び「内部評価（今後の方向性）の妥当性」の5項目を記載するようにし、各委員が判定しました。さらに、最終的には、施策の方向性として「拡充」、「改善継続」、「現状維持」、「縮小」、「休止・廃止・終了」の5段階評価を行いました。

その後の第6回の委員会で、委員が各自のヒアリングメモを基に討議を重ねるとともに、第7回の委員会で評価結果としてとりまとめました。

4. 評価スケジュール

委員会	開催日	内容等
第1回	平成25年5月24日（金）	・評価スケジュールの決定 ・評価方法の検討
第2回	平成25年6月21日（金）	・評価方法、対象の決定 ・評価対象事業に対するヒアリング内容の協議
第3回	平成25年7月8日（月）	・評価対象事業に対するヒアリング内容の協議
第4回	平成25年7月26日（金）	評価対象事業のヒアリング
第5回	平成25年7月27日（土）	
第6回	平成25年8月23日（金）	評価結果のとりまとめ
第7回	平成25年10月18日（金）	評価結果報告書のとりまとめ

5. 評価結果

(1) 評価方法の内容

本委員会による外部評価は、鳥取市が第8次総合計画「実施計画」と連動した行政評価の取り組みを開始した18年度から実施しています。

平成19年度から評価対象を絞り込み、担当部局へのヒアリングを行った上で評価する方法へと見直して、本年度で7年目となります。

昨年度に引き続き、施策の目標を実現する手段である具体的な事務事業に対して、ヒアリングを一般市民に広く公開するため土曜日に実施しました。また、今年度は、

職員研修の一環として、市民の視点での様々な意見や評価を直接聞くことで今後の事業執行に役立てる目的で、多くの市職員の参加のもとで平日にも実施しました。

ヒアリングでは、限られた時間と資料や情報を基に行ったことから、すべてを把握したうえで評価が行えたとは言い難い点もありますが、専門的見地や市民の視点から検証することに努めてきました。

評価結果については、各委員が評価した結果を勘案しながら、「拡充」から「休止・縮小・廃止」までの5段階について各委員の判定結果から委員会の総意による審議の結果を採用しました。

(2) 総括コメント

本年度の外部評価について、委員会では特に次の3点について見直しを図ることを求めます。

① 事業の目的、指標、評価理由を的確に記述する

外部評価の重要な役割として、鳥取市が行った内部評価が妥当であるかどうかを検証することがあります。しかし、これまでの報告書でも改善するよう指摘していた内部評価結果をまとめた事務事業評価シートにおいて、**事業の目的、活動指標や評価理由などの確に記述されていないと考えられるものが見受けられました。**さらに、いくつかの事業のうち、たとえば「学力向上推進事業」「特別支援教育支援員配置事業」などのヒアリング対象事業の事務事業評価シートにおいては、**目的の妥当性、事業の有効性、資源投入の効率性など4項目の評価理由について、不明確であると委員から指摘がありました。**市民ニーズに合致した事業目的、適切な目標を定めるとともに、評価理由は、評価の視点を踏まえ、なぜその評価内容にしたのかを分析する記述としてください。特に、事務事業評価シートは本委員会にとって、最も重要な資料の一つであるばかりではなく、市民への説明責任を果たすうえで必要な資料であり、担当部局の施策や事業の考え方や、実施計画、実施経過等を理解するためにも的確に示し、詳しくかつ丁寧に記述することを望むとともに、今後の展開（スクラップアンドビルド）についての見解等も記述されることを望みます。

② 定期的な事務事業の見直し

今回の外部評価では、貴重な行政資源（財源・職員）を全庁的な視点で有効に活用すべきという意見も多く、前例踏襲の事業継続を改め、市民ニーズをとらえ、時代の変遷とともに変化する社会状況にスピードを持って対応しつつ、効率的、効果的な事業執行となるよう定期的な見直しを行う必要があります。

③ 効果的な広報等について

市民に公開して実施するヒアリングは、今年で4回となりますが、傍聴に訪れる市民は年々少なくなり、関心が高いとは感じられません。市民に関心を持たれる実施方法、効果的な広報を工夫検討する必要があります。

さらに、公開ヒアリングの傍聴者アンケートでは、担当課からの事業説明や質疑に対する応答で、理解しにくいなど意見が寄せられており、傍聴者をはじめ評価者にわかりやすい公開ヒアリングとなるよう職員のプレゼンテーション能力の向上を期待します。

各事務事業の具体的な評価については、次ページ以降に掲載しています。今後の事業実施にあたり、行財政改革の観点から内容を十分に検討の上、行政運営の改善に活用していただくよう期待します。

なお、本年度に外部評価を実施しなかった各部局においても、この報告書を十分に参照され、今後の行財政改革に取り組まれるようお願いいたします。

また、外部評価を行うに当たりヒアリングに対応いただいた担当部局の職員をはじめ、関係者のご協力に感謝申し上げます。

(3) 各施策に対する意見・提案等

各事務事業の評価結果や意見・提案等について個別に記載しています。

※「3 外部評価結果」には委員会の統一見解を、「5 各委員の評価コメント」には、各委員の個別意見を記載しています。

1 対象事務事業名

事務事業名	学力向上推進事業(学力向上推進)
-------	------------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	評価結果
学校・保護者・地域の連携による事業であり、全ての児童生徒の学力向上につながる大変有効な事業である。今後は、小中一貫教育推進プランなど他事業との発展的な融合なども検討し、一層の拡充を考えている。	拡充

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
各学校間の取り組みに対するバラツキは、学校の要望の有無によるものだけとは思われない。場合によっては、教育委員会によるリードを検討するとともに、全市的に支援者を確保するなど、学校、保護者、地域との連携を密にし、喫緊の課題としてスピードをあげて充実を図る必要がある。	拡充

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計				
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			拡充	75%		
高い	100%	有効である	75%	効率的である	50%	公平である	0%	妥当である	50%				改善継続	25%
低い	0%	有効でない	0%	効率的ではない	25%	公平でない	100%	妥当とはいえない	50%				現状維持	0%
判定困難	0%	判定困難	25%	判定困難	25%	判定困難	0%	判定困難	0%				縮小	0%
													休止・廃止・終了	0%

【集計結果が示す割合について】
集計結果が示す割合(%)は、評価した4名の評価結果を示しています。
25%⇒1人、50%⇒2人、75%⇒3人、100%⇒4人

5 各委員の評価コメント

<p>【拡充に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、保護者、地域の連携を密にとり今後益々充実してほしい。今ひとつ地域の人材を活用してほしい。人材の確保のために地域にアンテナを張って下さい。 ・もっとタイムスケジュールを具体化し、厳しく詰めて進めていくべきだと思います。この時期に対応してもらっていない子どもたちはそのまま大人になっていくしかなく・・・不公平さを出さないのであれば、もっと急務として焦るべきでしょう。 ・基礎学力定着支援事業実績の各学校間の大きなバラツキは、学校の要望の有無によるものだけとは思わず、全市的な支援者の確保や暫定的に教員での対応等、さらに踏み込んだ取り組みが必要。 ・トリニティプランは、当初の事業目的実現のため各校区の自主性に委ねるだけでなく、構成員や保幼小中一貫の取り組みなど、ベースになるものについては、統一的な指示・取り組みが必要なのは。 ・中山間地域ふるさと体験活動支援事業については、該当校からみれば5年に1度の事業であり効果があると思えない。必要性、有効性、効率性、公平性、全ての面で疑問であり即刻廃止し、当該事業予算を他に振り向けるべきである。 ・中学校不登校の出現率は高水準で推移しており、これまでの施策の有効性等を再検証し、早急に対策を実施する必要あり。 <p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な事業と考えるが、基礎学力定着事業など学校によってその取組みに温度差が見られる。学校の自主性を尊重し、事業を選択させているとのことであるが、教育委員会がリードすることも必要ではないか。 ・事業が有効である(成果が上がっている)という根拠が明確でない。今回提出された全国学力・学習状況調査の分析概要からはわからない(対全国比で下がっている面もある)。またHP上で公開されている分析資料をざっと拝見しても「良好な結果を維持している」か否かは判然としない。 ・基礎学力定着支援事業は、各学校の児童生徒から見て、公平とは言えない(学校差が大きい)。 ・トリニティプランは、各学校の児童生徒から見て、公平とは言えない(児童生徒数の違いにも関わらず一律配分) ・現行の仕組みのまま拡充することは望ましくなく、改善の後に拡充すべき。

1 対象事務事業名

事務事業名	特別支援教育支援員配置事業
-------	---------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
年々、配置数を拡充してきたところであるが、将来的には全小中学校に配置する方針である。	拡充

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
教育上特別な配慮を要する児童生徒が増加し、教育現場では複数配置を要望する切実な声がある。一方で、未配置の学校が半数以上もあるなど、対応が大幅に遅れており、危機感をもって可能な限り早期に、各学校のニーズに対応すべきである。なお、評価結果では、指摘された改善点に素早く対応しつつ、拡充すべきという意見が多数を占めた。	拡充・改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計						
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			拡充	50%				
高い	100%	有効である	25%	効率的である	0%	公平である	0%	妥当である	25%				改善継続	50%		
低い	0%	有効でない	75%	効率的ではない	75%	公平でない	75%	妥当とはいえない	75%							
判定困難	0%	判定困難	0%	判定困難	25%	判定困難	25%	判定困難	0%						現状維持	0%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した4名の評価結果を示しています。 25%⇒1人、50%⇒2人、75%⇒3人、100%⇒4人																
										休止・廃止・終了	0%					

5 各委員の評価コメント

<p>【拡充に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拡充が必要ではあるが、予算にとらわれ、要望、要求がないがしろになっている。他のイベント等の費用を減額してでもこの事業に費やしたい。 ・可能な限り早期に、全小中学校に1人以上の支援員の配置ができるよう努めていただきたい。 ・教育上特別な配慮を要する児童生徒が増加し、教育現場では複数配置を要望する切実な声がある一方で、1名の配置もできていない学校が半数以上もあるなど、対応が大幅に遅れている。学級崩壊にもつながりかねない危機的な状況であるとともに、公平の観点からも大きな問題である。 ・支援員の配置状況は全国でワースト3であり、高い不登校の出現率と併せ、子どもへのケアが不十分な状況では、一方で移住・定住を促進しても、鳥取での子育ては忌避されてしまう。風評が全国に広まらないうちに危機感をもって早急な対応が必要。 <p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改善後→拡充 支援員の業務から教職員免許を持っていないと従事できない仕事か否かで疑問がある。必要ない場合も多いと考える。条件・待遇を分けて2パターンで募集すれば、もっと迅速な対応が出来ると思う。そして早急に対応すべきです。 なぜなら、今を過ごしている子どもたちはその時期に人格が形成され、形成された人格で社会に出るからです。社会適能力さえ身に着ければ、社会で自立することができます。その時期の周りのサポートで自立できるチャンスを逃がしてしまったら、社会に適応できず阻害されてしまいます。この時期で何十年かが決まってきます。効果的で迅速なシステムのマイナーチェンジが必要です。 ・これまでニーズの大半に対応しておらず、全く有効ではない。直ちにニーズを充足できないのであれば、通常の学級における特別支援が全く足りていない状態が、支援対象の児童生徒、支援対象でない児童生徒の双方にとって本当にベストなのか、きちんと個々のケースについて判断すべきではないか。 ・現状は単に数的不足に止まらない、深刻な事態ではないか。 ・全小中学校に配置することを優先する方針のまま拡充することは望ましくない。現場の状況を細かく把握の上(すでにされているのであればそれを踏まえ)、必要な人員の確保策などの戦略を早急に探るべきではないか。

1 対象事務事業名

事務事業名	睦逢大堤うぐい突き補助金(気高町地域振興課)
-------	------------------------

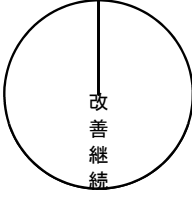
2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
400年以上前に鹿野城主亀井公が東南アジアから睦逢に伝えた漁法で、伝統漁法として大切に後世に伝承するとともに、地域住民の交流を促進し広く市民の関心を喚起し地域の賑わいを創出したい。	現状維持

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
<p>昨年に引き続き、旧町村のイベント補助のうち7件を対象とし、外部評価を行ったが、今後、すべてのイベント補助のヒアリングを実施して評価後に客観的に旧町村のイベント全体を評価することとする。</p> <p>本事業については、「改善継続」としたものの、事業の目的やその目的を達成するための手段として適当なものか見直しを行い、事業のあり方を検討するにあたっては、他の事業と統合して実施するなど効果的な実施方法の検討が求められる。</p>	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計		
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性				
高い	25%	有効である	25%	効率的である	0%	公平である	0%	妥当である	0%		拡充	0%
低い	25%	有効でない	50%	効率的ではない	75%	公平でない	25%	妥当とはいえない	75%		改善継続	100%
判定困難	50%	判定困難	25%	判定困難	25%	判定困難	75%	判定困難	25%		現状維持	0%
<p>【集計結果が示す割合について】</p> <p>集計結果が示す割合(%)は、評価した4名の評価結果を示しています。 25%⇒1人、50%⇒2人、75%⇒3人、100%⇒4人</p>										縮小	0%	
										休止・廃止・終了	0%	

5 各委員の評価コメント

<p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この事業(補助金)単独の評価は困難。 ・継承と地域イベントという2つのねらいを明確にして手段を講ずるべき。後者についての補助金支出は慎重であるべき。 ・本件の放流事業と他の補助金を活用して行う秋のうぐい突き事業は一体として考える必要がある。 ・伝統漁法の保存、伝承という点で見れば、事業が拡散し、かつ獲得予算消化の面も否めず、地域行事とは言えなくなっている。 ・春、秋の事業を統合し本来の趣旨に立ち返る必要あり。 ・同様な事業があるので、事業を見直し、共同で行っていく方法を取るべきだ。継承する人がいないのであれば、事業休止もやむを得ない。 ・一度休止し、事業の目的やその目的を達成するための手段として適当なものか考えてみていただきたい。 ・担当者自身、イベントが鳥取に効果的な働きをしているという思いがうすかった。これはやり方を工夫して町村イベントとしてのくくりで実施して行く方向性を考えていくことが賢明だと思う。

1 対象事務事業名

事務事業名	貝がら節まつり補助金
-------	------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
浜村温泉の観光不振の中、地域住民自ら貝がら節まつりを自分たちのイベントとして盛り上げていくという機運を醸成して行く必要がある。	改善継続

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
昨年に引き続き、旧町村のイベント補助のうち7件を対象とし、外部評価を行ったが、今後、すべてのイベント補助のヒアリングを実施して評価後に客観的に旧町村のイベント全体を評価することとする。 本事業については、地域住民の賑わいづくりイベントの要素が大きいと思われるため、他地域との調整や地域住民と連携するなど効率的・効果的な実施に向け抜本的な改革を求める。	縮小

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計		
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性				
高い	0%	有効である	0%	効率的である	0%	公平である	25%	妥当である	50%		拡充	0%
低い	100%	有効でない	75%	効率的ではない	75%	公平でない	50%	妥当とはいえない	50%		改善継続	25%
判定困難	0%	判定困難	25%	判定困難	25%	判定困難	25%	判定困難	0%		現状維持	0%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した4名の評価結果を示しています。 25%⇒1人、50%⇒2人、75%⇒3人、100%⇒4人										縮小	50%	
										休止・廃止・終了	25%	

5 各委員の評価コメント

<p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客は望めなくて、現在は町民のにぎわいのためのイベントである。補助金を使って花火をして、お金が消えてしまう事に不公平感がある。貝がら節の事だけなら、保存会の方法でのイベントをしたらよい。 <p>【縮小に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併前の旧町単位でのイベントを一切否定するものではないが、毎年4百万円も補助して続ける必要があるのか疑問。旧市内地域との不公平感も否めない。例えば、他の旧町村との調整により、隔年、輪番による開催など、効率的・効果的なイベントとなるよう全体的な再検討が必要と考える。 ・この事業のように、観光客向けの要素が小さく地域住民のためのイベントとなっているものについては、近い将来に全市で支援目的を明確にし、体制を見直すべき。例えば個々のイベントを統合したり、隔年開催にしたりするなど、全体としては縮小するのが自然ではないか。 ・改善策・見直し策を検討するためにも、参加者の把握(総数だけでなく、様々な内訳)をすべき。観客数の有効数字が1ケタでは数えているとはいえない。 ・外部から観光客を呼ぶイベントというより地域行事としての位置づけが妥当だが、住民の主体性が欠けており抜本的な改革が必要。 ・踊り出場者や見学者に多額の報償金が支出され、他地域のイベントと比べ均衡を失する。 <p>【休止・廃止・終了に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントのくくりで実施していくことを検討していくべき。

1 対象事務事業名

事務事業名	ふるさと産業まつり(気多の市)補助金
-------	--------------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
地域住民のニーズに応えた運営を行い、参加者の拡大を図る。県内外へ広く気高地域をPRしていくことも取組んでいく。	現状維持

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
昨年に引き続き、旧町村のイベント補助のうち7件を対象とし、外部評価を行ったが、今後、すべてのイベント補助のヒアリングを実施して評価後に客観的に旧町村のイベント全体を評価することとする。 本事業については、他の事業と統合して開催するなど効果的・効率的な実施方法の検討が求められる。	縮小

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計											
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			<table border="1"> <tr><td>拡充</td><td>0%</td></tr> <tr><td>改善継続</td><td>0%</td></tr> <tr><td>現状維持</td><td>0%</td></tr> <tr><td>縮小</td><td>75%</td></tr> <tr><td>休止・廃止・終了</td><td>25%</td></tr> </table>	拡充	0%	改善継続	0%	現状維持	0%	縮小	75%	休止・廃止・終了	25%
拡充	0%																				
改善継続	0%																				
現状維持	0%																				
縮小	75%																				
休止・廃止・終了	25%																				
高い	25%	有効である	0%	効率的である	0%	公平である	25%	妥当である	25%												
低い	75%	有効でない	75%	効率的ではない	75%	公平でない	75%	妥当とはいえない	75%												
判定困難	0%	判定困難	25%	判定困難	25%	判定困難	0%	判定困難	0%												
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した4名の評価結果を示しています。 25%⇒1人、50%⇒2人、75%⇒3人、100%⇒4人																					

5 各委員の評価コメント

<p>【縮小に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の事業をまとめて行ってはどうか。事業ごとにかかっていた費用も縮小できるし効率がよくなる。 ・この事業のように、観光客向けの要素が小さく地域住民・商店のためのイベントとなっているものについては、近い将来に全市で支援目的を明確にし、体制を見直すべき。例えば個々のイベントを統合したり、隔年開催にしたりするなど、全体としては縮小するのが自然ではないか。 ・改善策・見直し策を検討するためにも、参加者の把握(総数だけでなく、様々な内訳)をすべき。観客数の有効数字が1ケタでは数えているとはいえない。 ・「産業まつり」としての意義と要素は既に失っており、実態は地域イベント。同日に行われている「気高町文化祭」等と一体化し開催すべき。 <p>【休止・廃止・終了に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントのくくりで実施していくことを検討していくべき。 <p>【その他意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度他のイベントと開催時期を調整したとのことであるが、補助する事業も再編統合するなど効果的、効率的な実施方法を検討いただきたい。

1 対象事務事業名

事務事業名	中心市街地活性化事業(イベント助成事業)
-------	----------------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
補助対象イベントでの集客実績は、中心市街地のにぎわい創出に十分に寄与しており、公募提案型イベントへの補助とすることで、企画立案者の育成等も行ってきた。平成23年度より、重点場所においては補助率、補助上限額を高く設定し、中心市街地の賑わいの核となる施設やエリアに大型イベントを呼び込み、他の中心市街地活性化事業との相乗効果による賑わい創出の強化を図っている。街なか駐車場無料開放デー補助は平成24年度で終了したが、それに代わる何らかの支援ができないか検討したい。	縮小

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
「改善継続」としたものの、「縮小」「休止・廃止・終了」を合わせると同率となっており、本事業を肯定的に捉える意見はない。助成を行っているイベントや実施主体が適切であるのか商店街の振興に繋がっているのか再検討するとともに、商店(街)の自助努力を促す施策への転換を図る必要がある。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計				
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			現状維持	0%		
高い	50%	有効である	0%	効率的である	0%	公平である	0%	妥当である	0%				拡充	0%
低い	50%	有効でない	100%	効率的ではない	100%	公平でない	50%	妥当とはいえない	100%				改善継続	50%
判定困難	0%	判定困難	0%	判定困難	0%	判定困難	50%	判定困難	0%				縮小	25%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した4名の評価結果を示しています。 25%⇒1人、50%⇒2人、75%⇒3人、100%⇒4人										休止等	25%	休止・廃止・終了	25%	

5 各委員の評価コメント

<p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地の活性化のためにイベントを通して協力しようとする団体等への助成は行っていき事には問題ないが、本来は商店街の店主の方がもっと奮起されなければならないのでは。 ・第2期中心市街地活性化基本計画を読む限り、第1期の成果が十分上がったかは疑問。少なくとも有効とはいえないのではないか。 ・第2期中心市街地活性化基本計画の進行管理のための成果の測定・検証方法を考えるべき(もしまだであれば) ・施策評価シート、事務事業評価シートはともに第2期基本計画を反映していない。 <p>【縮小に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店も減り・雇用も減少し、市役所移設案まで出ているのに、税収が減っても継続して賑わいに投資することができるのでしょうか？言っていることとやっていることが違う。また、駐車場無料デーをなくして補助金枠にいれたのであれば、予算縮小ではなく予算移行ではないのか。 <p>【休止・廃止・終了に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の活性化に向け助成を行っているイベントや実施主体が適切かどうか検討すべきである。中心市街地の活性化に商店街を抜きに考えることはできないため、商店街の振興につながる事業形態に見直しをしていくべきと考える。 ・本事業は「にぎわいの創出」には寄与しているが、何のために「にぎわいの創出」を図るのか、今一度原点に立ち返る必要がある。中心市街地における事業所数、従業員数の低下には歯止めがかかっておらず、商店街あるいは個店との連携事業の強化、さらには自助努力を促す施策への転換が必要なのでは。
--

1 対象事務事業名

事務事業名	中心市街地活性化推進事業(市民交流ホール)
-------	-----------------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
パレットとつとりは市民交流ネットワークの起点であり、多様な市民交流の場としての公共的な役割を担っている。市民交流ホールの集客を高めることは、パレットとつとりの拠点性を高めるとともに、周辺商店街等への賑わい創出に資するものである。今後もホールの集客力向上、利用促進に努めることで、中心市街地における賑わい拠点性を維持し、継続した中心市街地再生を図る。	改善継続

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
中心市街地活性化のために必要な施設と考えるが、補助金の算定の見直しなど、抜本的な見直しを行うとともに、事業の必要性や成果を常に確認するために評価の仕組みを検討する必要がある。	縮小

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計		
必要性	有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性					
高い	50%	有効である	25%	効率的である	25%	公平である	50%	妥当である	25%		拡充	0%
低い	50%	有効でない	75%	効率的ではない	75%	公平でない	50%	妥当とはいえない	75%		改善継続	25%
判定困難	0%	判定困難	0%	判定困難	0%	判定困難	0%	判定困難	0%		現状維持	0%
											縮小	75%
											休止・廃止・終了	0%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した4名の評価結果を示しています。 25%⇒1人、50%⇒2人、75%⇒3人、100%⇒4人												

5 各委員の評価コメント

<p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間団体の人件費の10/10を負担するにあたっては、その必要性や成果を常に確認することが必要と思う。しかし、活動指標は本事業との関係が薄く、「7評価」欄の有効性・効率性の内部評価も、事実を反映していない、少なくとも明確な根拠がないのではないかという疑問がある。 <p>【縮小に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設管理者、商店街振興組合にまかせ、補助金の対象は、ホール利用者への利用料、駐車料の補助対象にすべきである。 ・中心市街地活性化のために必要な施設と考えるが、運営に係る市の補助が高額すぎる。補助金の算定の見直しなど、抜本的に見直しを行うべき。 ・商工会議所の補完施設として、早期に独立を促すべき。 <p>具体的な目標数値・金額の減少を決めて、効果が出ていなくとも実行して行かないと、効果の出る運営努力をしないと思う。どうしてこのようにぬるま湯を浴びせ続けるのか、理解できない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人件費補助(10/10)が数年間続いているが、ホールの利用実態に合わせた勤務形態とした上で補助金を算出するなど、内容の分析が必要。
--

1 対象事務事業名

事務事業名	企業立地促進支援事業(補助金)
-------	-----------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
グローバル競争に勝ち抜くために国内大手企業が大規模な事業再編に動く中で、企業の国内での新規投資は減少傾向にあり、企業誘致の地域間競争は激化している。各地域が様々な優遇助成制度を武器に誘致合戦を繰り広げる中で、本市においては順調に実績を伸ばしている。しかし、一方で三洋電機をはじめとした雇用の場の喪失も大きく、依然として本市の雇用情勢は厳しい状況にある。今後も企業ニーズに応じた補助要件の緩和や補助内容の充実を図り、より一層の企業誘致の促進を図りたい。	拡充

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
産業構造の変化と雇用喪失の中、企業立地促進は有効な施策であり、雇用の場の確保につながるよう、雇用状況や経済効果を総括的に把握のうえ拡充すべきである。企業誘致にあたっては、県をはじめ関係機関との一層の連携を図りながら取り組む必要がある。また、補助金受領企業による設備投資にあたっては、地元企業を優先利用する仕組みづくりを進める必要がある。	拡充

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計				
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			拡充	50%		
高い	100%	有効である	75%	効率的である	50%	公平である	75%	妥当である	75%				改善継続	50%
低い	0%	有効でない	25%	効率的ではない	25%	公平でない	25%	妥当とはいえない	25%				現状維持	0%
判定困難	0%	判定困難	0%	判定困難	25%	判定困難	0%	判定困難	0%				縮小	0%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した4名の評価結果を示しています。 25%⇒1人、50%⇒2人、75%⇒3人、100%⇒4人													休止・廃止・終了	0%

5 各委員の評価コメント

<p>【拡充に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業県であるから食品関連で企業を立地促進してほしい。高齢化が進み会社組織で農業をして若い人達が働いていく形態になりつつあるので、是非、補助金により支援してほしい。 ・「拡充」し、雇用の場の確保を進める必要がある。雇用なくして地域振興等あり得ないと考える。 ・雇用(市民・市民以外、所得も)や経済効果(生産誘発効果などではなく、生産額・粗付加価値などの域内外の直接効果)を総括的に把握すべき。 ・拡充にあたっては、上記に基づく効率の判断が必要ではないか。 ・営業活動の初動段階から県との連携が必要ではないか。 <p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モノづくり産業支援(食品)はとてもいい着眼で、かつ、好条件な場所であろうが、自立心を失わすような、いたれりつくせりな対応では企業の自立は促すことは出来ないと思う。補助金渡りをさせないよう、止めることも無駄をなくす策の一つとして考えるべきではないのか。 ・産業構造の変化と雇用喪失の中にあり、企業立地促進は有効な施策。 ・企業誘致にあたっては、当該企業の能力、体力の見極めが必要で関係機関とより一層の連携が必要。 ・補助金受領企業による設備投資にあたっては、地元企業利用をさらに進める必要あり。

1 対象事務事業名

事務事業名	しゃんしゃん祭支援事業
-------	-------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
今後日本の祭として広く県内外にアピールしていくためにも、しゃんしゃん祭り振興会に対する継続的な支援が必要である。	改善継続

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
全国レベルの観光イベントへの引上げを目標とするためには、観客の内訳やニーズの把握に努めるとともに、エージェン等への具体的な働きかけについて検討する必要がある。また、厳しい財政状況が続くなか、参加団体負担金、協賛金の拡充を図り、補助金を減らす仕組みづくりをしていく必要がある。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計		
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			拡大	0%
高い	100%	有効である	75%	効率的である	25%	公平である	100%	妥当である	75%		改善継続	75%
低い	0%	有効でない	0%	効率的ではない	50%	公平でない	0%	妥当とはいえない	0%		現状維持	25%
判定困難	0%	判定困難	25%	判定困難	25%	判定困難	0%	判定困難	25%		縮小	0%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した4名の評価結果を示しています。 25%⇒1人、50%⇒2人、75%⇒3人、100%⇒4人										休止・廃止・終了	0%	

5 各委員の評価コメント

<p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業からの協賛金を集め、市の補助金を減らしていく事を今後検討していくのがよい。 ・観光素材として活用や参加者からの参加料のあり方(どこまで市が負担すべきか)など改善を加えていただきたい。 ・充実を図るなら、観客の内訳(市民か入込客か、など)の把握と観客の声の収集を提案したい。それにより、事業の有効性や効率性を明確に評価できる。 ・行政は主導的な役割ではなく、仕掛けや支援に徹すべき。 ・しゃんしゃん祭振興会事務局は観光コンベンション協会内にあるものの連携が不十分であり、責任体制が不明確。 ・運営委託料(H24 12百万円)の支出が不透明。また委託内容の検討がきちんとなされているのか疑問である。 ・全国レベルの観光イベントにという意気込みに反し、エージェン等への具体的な働きかけはほとんどなく、宣伝費は内向きなものとなっており、改善が必要。 ・市の負担金軽減のため参加団体負担金、協賛金拡充へのさらなる動きも必要。 <p>【現状維持に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算継続をしつつも減少出来る仕組みづくりと模索・周囲の理解・周知をしていくべきだと考える。
--

1 対象事務事業名

事務事業名	人材育成事業
-------	--------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
定員適正化計画に基づき、職員数が減少するなか、市民サービスの維持・向上を図り、多様化する市民のニーズ等に対応するため、職員のスキルアップが不可欠であり、意図的に拡大し取り組むことが必要である。また、研修が真に有益な人材育成となるよう希望者の意思を尊重した受講生の決定のあり方について見直しを図る必要がある。	拡充

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
優秀な人材確保は今後の市行政には欠かせないものであり、事業の必要性は高い。多様化する市民ニーズに対応できるように研修項目の精査を行うとともに、受講の成果を把握する仕組みが必要である。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計						
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			拡充	0%				
高い	100%	有効である	20%	効率的である	20%	公平である	20%	妥当である	0%				改善継続	80%		
低い	0%	有効でない	40%	効率的ではない	80%	公平でない	60%	妥当とはいえない	60%						現状維持	0%
判定困難	0%	判定困難	40%	判定困難	0%	判定困難	20%	判定困難	40%							
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した5名の評価結果を示しています。 20%⇒1人、40%⇒2人、60%⇒3人、80%⇒4人、100%⇒5人										休止・廃止・終了	0%					

5 各委員の評価コメント

<p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究項目を精査し、優先順位を示して、職員に周知徹底する必要がある。 ・災害対応(派遣職員の経験等)に対する継続的な研修を望む。 ・受講が必要な人に適切な講座を割り当て、また、受講の成果を定性的にでも把握する仕組みが必要では。 ・基礎研修は別にして、大切なのは人材育成である。研修して参加できる職員の雰囲気改善してほしい。 ・能力開発センターの講座についてもその内容を検討するべきと思う。 ・人材育成事業は人的投資であり、優秀な人材確保は今後の市行政には欠かせない。その点で、具体的な育成目標を立て、有効的に事業費を使ってほしい。 <p>【縮小に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間毎にテーマを絞り、受講者を増やす努力が必要。採用時が大切です。

1 対象事務事業名

事務事業名	文化施設管理事業(仁風閣・宝扇庵)
-------	-------------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
指定管理者のノウハウを活用した管理を継続し、重要文化財の適正な管理に努める。また、各種展示・体験活動等を実施し、利用者の増加に努めることが必要である。	拡充

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
指定管理者による運営のもと、適切な維持管理・活用を図る工夫が必要である。	現状維持

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計						
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			拡充	0%				
高い	80%	有効である	40%	効率的である	20%	公平である	60%	妥当である	20%				改善継続	40%		
低い	0%	有効でない	20%	効率的ではない	60%	公平でない	20%	妥当とはいえない	20%						現状維持	60%
判定困難	20%	判定困難	40%	判定困難	20%	判定困難	20%	判定困難	60%							
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した5名の評価結果を示しています。 20%⇒1人、40%⇒2人、60%⇒3人、80%⇒4人、100%⇒5人										休止・廃止・終了	0%					

5 各委員の評価コメント

<p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだまだ可能性がある施設だと思います。活かし方を発展させてほしい。 ・仁風閣の入館料150円は安い。重要文化財なのでもっと大切にあつかってほしい。(安くてよいわけではない) ・宝扇庵は、土日のみでも茶席をもうける(担当は各茶道の支部のもちまわり)ことは考えられないのか。 <p>【現状維持に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保存という維持事業としては現状維持が妥当。 ・実績を踏まえた評価となっているが、発展性は高くない。 ・具体的な構想があるわけではなさそうであり、現状維持で良いのでは。
--

1 対象事務事業名

事務事業名	文化施設管理事業(青谷上寺地遺跡展示館・あおや郷土館)
-------	-----------------------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
指定管理者のノウハウを活用した管理を継続して入館者数の増加を図り、各種展示・イベント等を通して、史跡の保護意識醸成や市民文化の向上等に努める。	現状維持

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
指定管理者による運営のもと、引き続き施設の活用を促進する工夫が必要であるとともに、市全体での活用・連携策を検討する必要がある。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計						
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			拡充	20%				
高い	80%	有効である	0%	効率的である	0%	公平である	40%	妥当である	40%				改善継続	40%		
低い	0%	有効でない	60%	効率的ではない	100%	公平でない	40%	妥当とはいえない	20%						現状維持	40%
判定困難	20%	判定困難	40%	判定困難	0%	判定困難	20%	判定困難	40%							
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した5名の評価結果を示しています。 20%⇒1人、40%⇒2人、60%⇒3人、80%⇒4人、100%⇒5人										休止・廃止・終了	0%					

5 各委員の評価コメント

<p>【拡充に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示方法、建物について改善の方法を考えるべき。全国でも注目され、また、非常に高度な出土品があるため、もっと大切に展示することを考えるべき。しっかりとした建物がはやく出来る事を望む。 <p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・因幡万葉歴史館と連携し、また他の課と協力して、市内小中学校の生徒の歴史学習に利用できないか。 ・PRに力を入れる必要があると考えます。地域の方の活用をもっと図る必要がある。 <p>【現状維持に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路整備とあわせた発掘が進行中であり、当座このままでよいと考えるが、青谷にある資源を他地域でも展示するなど、市全体での活用・連携策を検討してもよいと思う。 ・現在は管理に重点が置かれているように感じる。これからは市民により広く公開してくことを目指して運営面の工夫が必要。
--

1 対象事務事業名

事務事業名	文化施設管理事業(因幡万葉歴史館)
-------	-------------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
指定管理者のノウハウを活用した管理を継続し、市民の文化意識の高揚、福祉の増進に努める。また、常設展示等のあり方を検討協議し、内容の整備及び入館者の増加に努める必要がある。	現状維持

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
指定管理者による運営のもと、引き続き施設の活用を促進する工夫が必要であるとともに、市全体での活用・連携策を検討する必要がある。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計		
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性				
高い	60%	有効である	20%	効率的である	20%	公平である	40%	妥当である	60%		拡充	0%
低い	0%	有効でない	40%	効率的ではない	60%	公平でない	40%	妥当とはいえない	20%		改善継続	60%
判定困難	40%	判定困難	40%	判定困難	20%	判定困難	20%	判定困難	20%		現状維持	40%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した5名の評価結果を示しています。 20%⇒1人、40%⇒2人、60%⇒3人、80%⇒4人、100%⇒5人										縮小	0%	
										休止・廃止・終了	0%	

5 各委員の評価コメント

<p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青谷の施設と連携して、児童生徒の歴史教育に活用する方策を模索すべきと考える。 ・今後の決断を下す為にも、前向きなダイナミックな取組みが必要かと思えます。 ・500円を300円にしたことが理解できない。もっと施設とか整備に費用を使うべき。 ・国府町全体の文化を考えた展示、企画ができないのか考えてほしい。 <p>【現状維持に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状維持でよいと考えるが、市全体をカバーするような振興・活用策(共同でのイベントやシリーズ企画)などの検討を期待したい。 ・万葉歴史博物館の施設としての位置づけを明確にして、メリハリのある展示を展開してほしい。中途半端なのは市民も観光客も困ってしまう。
--

1 対象事務事業名

事務事業名	用瀬流しびな行事(用瀬町産業建設課)
-------	--------------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
流しびな行事は、昭和60年に「もちがせの雛送り」として鳥取県無形民俗文化財に指定された、後世に伝承すべき鳥取県を代表する貴重な観光行事であり、春の風物詩として全国各地から多数の観光客が訪れる。地元の方々が企画から当日の運営まで実施していて、用瀬地域の一体化、活性化にも寄与しており、今後とも継続すべき事業である。	現状維持

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
昨年に引き続き、旧町村のイベント補助のうち7件を対象とし、外部評価を行ったが、今後、すべてのイベント補助のヒアリングを実施して評価後に客観的に旧町村のイベント全体を評価することとする。 さらに、財政的に自立できるよう地域活力を活用するとともに、創意工夫する必要がある。	現状維持

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計						
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			拡充	20%				
高い	100%	有効である	60%	効率的である	40%	公平である	40%	妥当である	40%				改善継続	20%		
低い	0%	有効でない	20%	効率的ではない	60%	公平でない	0%	妥当とはいえない	60%						現状維持	60%
判定困難	0%	判定困難	20%	判定困難	0%	判定困難	60%	判定困難	0%							
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した5名の評価結果を示しています。 20%⇒1人、40%⇒2人、60%⇒3人、80%⇒4人、100%⇒5人										休止・廃止・終了	0%					

5 各委員の評価コメント

<p>【拡充に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用瀬のブランド確立に向けて、前向きに取り組んでいただきたいと思う。 <p>【現状維持に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用瀬町のみでなく全市的なバックアップ体制の確立を望む。 ・財源の確保に関する努力はより一層充実していただきたい。 ・会議費として反省会費用が計上してあるが、他費目からも残金が使われていると思う。備考を見るとあまりにも概算すぎる。
--

1 対象事務事業名

事務事業名	生涯学習推進事業費(用瀬町教育委員会分室)
-------	-----------------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
住民の生涯学習の推進を図るための事業として大変重要なものであり、継続した取組が必要である。今後はふれあいまつりの時に限らず、公共施設への展示などで成果を発表する機会を増やし、学習意欲を高める取組等も考えていきたい。	拡充

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
昨年に引き続き、旧町村のイベント補助のうち7件を対象とし、外部評価を行ったが、今後、すべてのイベント補助のヒアリングを実施して評価後に客観的に旧町村のイベント全体を評価することとする。 さらに、財政的に自立できるよう地域活力を活用するとともに、創意工夫する必要がある。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計						
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			拡充	0%				
高い	60%	有効である	60%	効率的である	40%	公平である	40%	妥当である	0%				改善継続	80%		
低い	20%	有効でない	20%	効率的ではない	40%	公平でない	60%	妥当とはいえない	80%						現状維持	0%
判定困難	20%	判定困難	20%	判定困難	20%	判定困難	0%	判定困難	20%							
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した5名の評価結果を示しています。 20%⇒1人、40%⇒2人、60%⇒3人、80%⇒4人、100%⇒5人										休止・廃止・終了	20%					

5 各委員の評価コメント

<p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併前の旧市内のように、公民館活動(?)としての取り組みに統合する必要あり。 ・地域コミュニティを担う事業として多くの住民の方で力を合わせて発展させて欲しいと思います。 ・市内の公民館の2館分ぐらいの町民で、全員参加かもしれないが、大がかりすぎるのではないかと。2回開催を1回に縮小できないものか(イベント、展示等、全部の催しを見てまわることも困難だと思う) ・これからの地域のあり方、地域づくりの一つの方策となる可能性がある。用瀬町の特色ある地域づくりとして継続してほしい。一方でそのノウハウを鳥取市全域に伝えるなどの鳥取市全域への貢献の点で検討してほしい。 <p>【休止・廃止・終了に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公平性の観点で問題あり。
--

1 対象事務事業名

事務事業名	流しびなマラニック大会補助金
-------	----------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
健康志向が高まる中、自分の健康に合わせランニングまたはウォークの選択が出来、気軽に参加しやすい大会として好評を得ている。本市の一大イベントとして定着しており、継続して実施したい。	拡充

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
昨年に引き続き、旧町村のイベント補助のうち7件を対象とし、外部評価を行ったが、今後、すべてのイベント補助のヒアリングを実施して評価後に客観的に旧町村のイベント全体を評価することとする。 さらに、財政的に自立できるよう地域活力を活用するとともに、創意工夫する必要がある。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計						
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			拡充	20%				
高い	40%	有効である	60%	効率的である	40%	公平である	60%	妥当である	40%				改善継続	40%		
低い	20%	有効でない	20%	効率的ではない	40%	公平でない	20%	妥当とはいえない	20%						現状維持	20%
判定困難	40%	判定困難	20%	判定困難	20%	判定困難	20%	判定困難	40%							
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した5名の評価結果を示しています。 20%⇒1人、40%⇒2人、60%⇒3人、80%⇒4人、100%⇒5人										休止・廃止・終了	0%					

5 各委員の評価コメント

<p>【拡充に関連する意見】 ・事業の運営の為だけの拡充ではなく、用瀬の観光、ブランディング(ブランド化させるための活動)施策として拡充して欲しいと思います。</p> <p>【改善継続に関連する意見】 ・全市的なバックアップ体制の確立が重要。 ・用瀬町民のみでなく、旧市内や県内、県外からの参加者を増やす努力が必要。 ・4月流しびな、5月マラニックと住民の協力を得ての行事だが、もっとシンプルにできないものか。今は鳥取市用瀬だが、その意識があるのかどうか。参加人数の制限もあってもよいと思う。</p> <p>【現状維持に関連する意見】 ・財源の確保に関する努力は一層充実していただきたい。</p> <p>【縮小に関連する意見】 ・賞品を他から調達すれば、市の補助は半減できる。</p>
--

1 対象事務事業名

事務事業名	ガイナール効果による鳥取力向上事業
-------	-------------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
鳥取で唯一のJ2サッカーチームであるガイナール鳥取の観戦客の増加を目指し、アウェイサポーターへのおもてなし強化、交通対策の充実などガイナール効果を最大限に活用した地域の活性化を進める。	現状維持

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
ガイナールを活用して鳥取力を向上する事業であるはずが、ガイナールの支援が目的化している印象が拭えない。多額の費用を投じている交通対策についても、受益者負担の観点から問題があり、改善を望む。なお、児童と選手との交流を通じた、スポーツの楽しさ、夢を育てる取り組みなどの体制強化についても検討されたい。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計						
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			拡充	0%				
高い	25%	有効である	25%	効率的である	25%	公平である	0%	妥当である	25%				改善継続	50%		
低い	25%	有効でない	75%	効率的ではない	50%	公平でない	100%	妥当とはいえない	75%						現状維持	25%
判定困難	50%	判定困難	0%	判定困難	25%	判定困難	0%	判定困難	0%							
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した4名の評価結果を示しています。 25%⇒1人、50%⇒2人、75%⇒3人、100%⇒4人										休止・廃止・終了	0%					

5 各委員の評価コメント

<p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すでに現行の路線で動いているので難しいかもしれないが、行政の支援の度合いが相対的に下がるよう(市民、企業などの人的・金銭的な支援が上がるよう)改善する必要がある。 ・スポーツを前面に出すべき。プロスポーツチームとしてのあり方を考え、イベントもよいが、サッカー少年、少女達へサッカーの楽しさ、夢を育てることも必要だと思う。 <p>【現状維持に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童のサッカー指導等にプロの選手が積極的に参加できる体制の強化。(児童と選手の交流) <p>【縮小に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取市に拠点を置く鳥取県のプロスポーツチームを支援することは反対しないが。単に支援するというより、市がそのようなプロチームを利用してメリットを得ることを主眼に、支援の在り方を考えてほしい。
--

1 対象事務事業名

事務事業名	砂丘景観保全事業(新発見伝)
-------	----------------

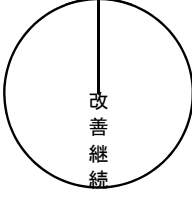
2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
鳥取砂丘の活性化につながる効果的なイベントを支援していくために事業を継続していく必要があるが、いずれの事業に対して支援するべきかについては、「鳥取砂丘新発見伝実行委員会」を通じて検討していく必要がある。また、より多くの魅力的なイベントが支援できるよう、幅広くその制度等を情報発信していく必要がある。	改善継続

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
鳥取市の観光にとって最も重要な資源である鳥取砂丘を有効活用するためにも、新しい魅力を開発する必要性は高い。しかし、現状と同じ内容のイベントが続いていたり、参加者数も伸びていないことから、県等との連携を図るとともに、各事業の成果を評価する仕組みを検討するなど、効率的、効果的な事業へ改善するよう望むものである。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計						
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			拡充	0%				
高い	75%	有効である	25%	効率的である	0%	公平である	25%	妥当である	75%				改善継続	100%		
低い	0%	有効でない	25%	効率的ではない	50%	公平でない	0%	妥当とはいえない	0%						現状維持	0%
判定困難	25%	判定困難	50%	判定困難	50%	判定困難	75%	判定困難	25%							
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した4名の評価結果を示しています。 25%⇒1人、50%⇒2人、75%⇒3人、100%⇒4人										休止・廃止・終了	0%					

5 各委員の評価コメント

<p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取砂丘は鳥取市の観光にとって最も重要な資源であり、これの有効活用には、各事業の採択基準の明確化、各事業の成果を客観的に評価する仕組みを考えてはどうか。 ・同じ内容のイベントが続いていたり、参加者数も伸びていない。何らかの改善が必要である。 ・参加者が少ないイベントは整理し、それぞれのイベントを充実させることも必要。 ・鳥取砂丘を他にはない個性豊かな観光資源に育てていく必要があると思う。その点で、他県などの成功事例をまねるような事業に乗っからないようにしてほしい。
--

1 対象事務事業名

事務事業名	町民音楽祭開催費(鹿野町地域振興課)
-------	--------------------

2 内部評価結果(担当部署の評価)

判定理由	方向性
様々な年代の市民が運営スタッフとなり、半年以上をかけてミュージカルを製作し上演することは、世代間を超えてのコミュニケーションが図られ、地域の活性化の原点となっており、今後も続けていくことが重要である。	現状維持

3 外部評価結果(市民委員会の評価)

判定理由	方向性
昨年に引き続き、旧町村のイベント補助のうち7件を対象とし、外部評価を行ったが、今後、すべてのイベント補助のヒアリングを実施して評価後に客観的に旧町村のイベント全体を評価することとする。 さらに、財政的に自立できるよう地域活力を活用するとともに、創意工夫する必要がある。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計		
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性				
高い	50%	有効である	25%	効率的である	50%	公平である	25%	妥当である	25%		拡充	0%
低い	25%	有効でない	50%	効率的ではない	25%	公平でない	75%	妥当とはいえない	75%		改善継続	75%
判定困難	25%	判定困難	25%	判定困難	25%	判定困難	0%	判定困難	0%		現状維持	25%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した4名の評価結果を示しています。 25%⇒1人、50%⇒2人、75%⇒3人、100%⇒4人										縮小	0%	
										休止・廃止・終了	0%	

5 各委員の評価コメント

<p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化・芸術の振興は鹿野町のみでなく、全市的な展開が必要。鹿野町が発信源となることに異論はないが、全市民が楽しめる企画となるよう望む。 ・どうしてもミュージカルではないといけないのか。もっと広める工夫、他の協力を求めることも考えられる。鹿野地域では人口が約4,000人、800名弱の参加、見直す機会だと思ふ。 ・他の財源確保に努力しているイベントもある。そのまま現状維持は難しい。鳥取市における特色ある地域づくりの先進的の地域として、市全体に貢献していかなければ一部地域の市民のためだけの補助を続けていくのは難しいと思ふ。鹿野町だけで完結することなく、その活動の意義を見直してほしい。 <p>【現状維持に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当座このままでよいが、減額を見こして今後の活動を検討していただきたい。

鳥取市行財政改革推進市民委員会委員

委員長	野田 英明	B班
副委員長	山下 恭史	A班 班長
	小野 達也	A班 副班長
	岸本 正枝	A班
	柴原 史則	B班
	谷本 圭志	B班 班長
	南部 敏	A班
	西村 教子	B班 副班長
	二宮 亜矢子	A班
	浜村 恵子	B班
オブザーバー	酒嶋 優	A班

班別評価対象事業

A班	B班
学力向上推進事業（学力向上推進） 特別支援教育支援員配置事業 睦逢大堤うぐい突き補助金 貝がら節まつり補助金 ふるさと産業まつり（気多の市）補助金 中心市街地活性化事業（イベント助成事業） 中心市街地活性化推進事業（市民交流ホール） 企業立地促進支援事業（補助金） しゃんしゃん祭支援事業	人材育成事業 文化施設管理事業（仁風閣・宝扇庵） 文化施設管理事業（青谷上寺地遺跡展示館・あおや郷土館） 文化施設管理事業（因幡万葉歴史館） 用瀬流しびな行事 生涯学習推進事業費 流しびなマラニック大会補助金 ガイナーレ効果による鳥取力向上事業 砂丘景観保全事業（新発見伝） 町民音楽祭開催費